

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホーム ペにばら(ユニット1)		
所在地	北海道雨竜郡秩父別町1542番地33		
自己評価作成日	平成 28 年9月3日	評価結果市町村受理日	平成 28年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kalgokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=0197400013-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で楽しみながら機能訓練に繋がるレクリエーションに取り組んでいる。2ユニットの特徴を活かしお互いに行ききしたり、会話など交流を設けることが出来ます。また、入居者の気分転換に、例えばその季節の花見(桜・菜の花・コスモス)のドライブに出かけたり、野菜作りを楽しみたい方には畑の代わりにベランダ近くにてプランターで野菜づくりを楽しんで頂いています。そして、地域交流として8月にペにばら夏祭り、12月には、餅つきを行い交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部に位置し、周囲は新しい住宅に囲まれた閑静な場所にひととき明るい木造平屋建て2ユニットの事業所である。法人理念「家庭的な環境の中で、自分らしく豊かにゆったりと暮らしながら、尊厳ある生活構築をめざす」と、事業所理念「安心して生活できるように真心をもって寄り添う介護」を職員全員で共有し実践に努めている。法人は町からの要請でサロンを運営し地域交流の場となっている。利用者は地域の祭り、敬老会などの地域行事に参加して交流し、地域住民からキュウリ、トマトなどの野菜の差し入れがある。ペにばら夏祭り、餅つきなどの事業所の行事には、ボランティア、地域住民が参加し、小学校、保育園との交流など相互に交流している。居間は広く、居室は居間に面して開放感があり、職員は明るく親身に利用者に対応し、温かい家庭的な雰囲気の中で、長い廊下を利用して歩行訓練を兼ねた散歩をしたり、居間ではテレビ体操、歌を歌ったりし、2ユニットのメリットを生かし職員全員がお互いに連携して合同でレクリエーションなどを行って、利用者同士の交流と機能訓練に繋げている。プランターを使い「ペにばら農園」としてトマト、キュウリ、ピーマンを作り収穫して楽しんでいる。理事長は各事業所を巡回し、利用者の声、職員の意見・要望を把握してサービス向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフミーティング、毎日のケアの中で理念の実践に向け行っている。	法人理念と事業所理念(安心して生活できるように真心を持って寄り添う介護)を各ユニットに掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して、日々確認し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	保育所・小学校との交流や町内の敬老会に参加したり、地域の床屋さんに来て頂き利用させて頂いている。	町内会に加入し、地域の一員として、地域の夏祭り、敬老会に参加して交流し、事業所行事べにばら祭り、餅つきには、地域住民、ボランティアが参加し交流している。保育園児の来訪、小学校と毎年交流している。地域から野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回広報を作成し地域の方へ認知症の人の理解を深めている。また、管理者が年に一度、老人会の集まりに「認知書について」講演している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、ご家族・町内会・民生員・役場の担当者に報告や話し合いをしてサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、町内会長、民生委員、役場担当者などが出席して、活動状況をはじめ運営状況を中心に報告話し合い、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。認知症についての話もしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者も運営推進会議に参加して頂き、取り組み状況を報告し協力関係を築くよう意見交換をしている。	役場担当者に利用状況、事業所の運営について報告し、制度改正、利用者の状況等について、情報交換して協力関係を築いている。運営推進会議でも指導、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り、勉強会で身体拘束について話し合い学んでいるが、強い帰宅願望者が1名おられ、やも得ず施錠する場合がある。	定例的に内部研修を行って、身体拘束をしないケアに努めている。帰宅願望の利用者が外に出たときは、行動を共にしている。夜間のみ防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングで話し合い、学び今後も当グループホーム内で起こらない様に注意し防止につとめる。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し配布された資料をミーティング時に共有し学んでいる。現在必要な入居者はいないが今後、いつでも対応出来る様学ぶ事は必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、家族や利用者の不安や疑問点がないか、伺い十分に理解や納得を図れる様に努め、口頭で説明附加していた事を別紙に文章化しお渡ししている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望等を面接時に雑談の中でさり気なく聞ける様にしている。	利用者とは日常の会話から、家族とは来訪時の会話、年に1回家族へアンケートを行って意見要望等を把握して、カンファレンス会議、全体会議で検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や各ユニット会議など意見を言う場は設けられている。	個人面談、ユニット会議、全体会議で意見・要望を検討し運営に反映させている。運営者と職員間は、日常の会話などから常に情報が共有されている。時には理事長自から、事業所を巡回し利用者、職員の声など現状把握に心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って労働出来る様務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ全員が各担当をし、向上出来る様務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のデイ、居宅、グループホームの管理者と情報交換や交流を行い努めている。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問調査を行いご家族から本人様の情報提供など参考にし、本人の不安や求めている事を傾聴し要望に対応出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人と一緒に見学に来て頂いたり、ご家族が困っている事や不安が軽減出来る様傾聴し事前に情報収集を行い、コミュニケーションを図り関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の必要としている支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に作業を行ったり、人生の先輩として昔の話等を聞き学んだり、共に支え合い生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者との会話の中でさみしさを感じ取った場合、必要があれば面会に来て頂いたり、受診時に一緒に来て頂く様、理解と協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院、美容院に行く支援や敬老会等の参加時に馴染みの人と笑顔で会話されています。面会も自由に行える様にしており馴染みの人との関係が途切れない様になっています。	近所の人や友人、親戚等の来訪時には居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。今まで行っていた美容院には、希望によりスタッフが付き添い送迎している。家族と一緒に墓参りに出かけるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を考え席等を考え職員が間に入る等し良い関係が持てる様努め、お互いに支え合える様支援に努めている。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の状態や、近況等をお会いした時にお聞きし、相談援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望を聞き意向の把握に努め、訴えの無い入居者には状況を見ながら何を求めているか、入居者本位になるように検討している。	日々の会話、開放感のあるくつろぎの時間の中で、思いや意向を把握して、業務日誌、連絡ノートに記録し職員で共有して、意向や希望に添うよう努めている。特に入浴時には本人の本音が聞け、職員全員でその思いを共有してケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族よりお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、スタッフミーティング連絡などで情報交換や共有を行い、現状の把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをして現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者、家族の意向を把握して、ケアマネージャーが原案を作成し、全体会議で意見を集約して、3ヶ月毎に介護計画を作成して家族に説明し確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録にこまかく行動言語など記入し又、連絡ノートで情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があればその都度支援し、ご家族にも協力して頂いている。時には宿泊にも対応出来る様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の学芸会の見学、保育園児にホームに来訪して頂きお遊戯の見学、町内の方々がお餅つきに来訪され楽しむことができる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけの医療機関に受診出来る様支援し、臨機応変に対応出来る様支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の依頼により、通院支援を行っている。病状により家族が同行することもある。受診結果については、その都度、家族に報告している。	

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携と当ホームの看護師、スタッフと情報を共有し的確な対応出来る様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、看護師と情報交換を行い早期退院出来る様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に書面にて説明し重度化の方針に署名捺印を頂いている。	契約時に指針に基づき利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化が認められた時には医師と相談し家族に説明して方針を共有して、医師と連携し対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議や勉強会にて、看護師より緊急時や事故発生時の対応について指導を受けたり、マニュアルを設置し、また救命講習を定期的に行い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練と、会議にて災害時マニュアルの確認している。	年2回(日中・夜間想定)、マニュアルに基づき、消防署の指導を受け、消火、避難訓練を実施している。地域住民へ避難訓練参加協力を呼びかけている。職員2人が近くに住んでいて災害時にはすぐ対応できる。ポータブルストーブ、飲料水、カンパンなどを備蓄している。	自然災害マニュアル(地震、洪水、停電、吹雪)が作成されているが、災害時に対応できるよう内容を点検して避難訓練し、災害に備えることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないような対応はしていないと思われます	毎月全体で勉強会を行って、利用者の希望する呼び方で対応し、トイレ誘導時の声かけなど尊厳やプライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。特に、失禁した場合等には尊厳を損ねない心配りに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない雑談の中から隠されたニーズをみつけ確認し感情表現の難しい入居者にはスタッフが見極めをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院がある場合は送迎し、身だしなみも出来る様支援している。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえの手伝って頂いたり、全入居者とシフトのスタッフで食事を一緒にしている。	メニューについては、基本的に365日決めているが、調理は職員が毎日交代で行い、季節の野菜を取り入れたり季節感を大切にした食事作りに取り組んでいる。下ごしらえ、皮むき、下膳などは、能力に応じ利用者皆さんで行っている。利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や形態の把握、水分量を把握し、一日の栄養・水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝時に必ず口腔ケアを行い口腔の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたトイレ誘導を行い、出来る限りトイレにて排泄できる様努めている。	個々人の排泄パターンを把握して、職員が共有し適時、しぐさなどから声えかけ誘導し、排泄の自立に努めている。失禁したときは、プライバシーを傷つけないよう気配りし、他に気づかれないうシャワーを使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付け、便秘の方にはヨーグルト提供をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介護員不足や行事等で中止になる事がある。	基本的には、週2・3回入浴できる体制は出来ているが、その日の体調、希望によって、臨機応変に対応している。入浴中は会話が多くなり本音で話すこともある。その情報を職員で共有しケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた心地よく眠れるように支援し努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが目的や副作用等全てまで理解出来ていないと思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた趣味等を提供出来る様支援に努めている。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気温、体調等を考慮し出来る限り希望に添えるよう散歩が出来る様支援している。	近隣の散歩は、個々の健康状態を見て希望や天候により適宜行っている。春の桜、夏は菜の花、秋はコスモスなど定例的にドライブを兼ねて実施している。その他は、天候により利用者の健康状況、希望、その他の状況を把握して、適宜実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある人には、ご家族と相談の上、小遣い程度所持して頂き外出時に買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度支援し、ご家族にも理解と協力を頂き支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度調節等、気配り居心地の良い環境作りに努めたり、ベランダ近くの外でプランターで野菜作りをしています。	居間などの共用空間は明るく、畳みの場所があり、利用者が寝転んだり、洗濯物をたたんだりしている。壁には行事の写真などが貼られ、季節に合わせ雛人形などが飾られ、植木を置いて家庭的な雰囲気となっている。利用者は長いすなどに座ってテレビを見たり、会話をして思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ戻られる方には自由に過ごして頂き、必要時には声掛けしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具等をご本人・ご家族と相談しながら検討し居心地良く過ごせる様に努めている。	居室は、整理、整頓され、馴染みの家具、花などを置いて、壁には自分の作品、思い出の家族写真等を飾り、それぞれが、落ち着いて居心地良く、生活出来るよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや立ち上がりバー等を設置し行動出来る様支援している。		